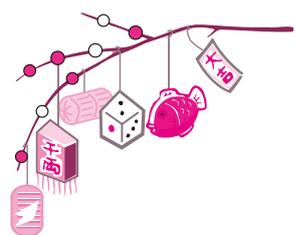




## 新年のご挨拶

東栄町長 村上 孝治



新年あけましておめでとございませう。

町民の皆様には、希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。平素は、町政全般にわたり温かいご支援、ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。過疎化、少子化の中、地域住民が互いに助け合い、支え合える地域自治の実現と持続可能なまちをめざし、第六次総合計画の二つの柱である「安心・安全で持続可能な町民の暮らしを実現できるプロジェクト」と「交流から移住・定住へとつなげるプロジェクト」のもと、協働・連携により発展するまちづくりを進めています。町民の皆様には、積極的にご参画いただき感謝申し上げます。

本町は依然として余裕のある裕福な財政状況ではありませんが、住民が安心して暮らせる町であることを最優先に事業を進めてまいります。まだまだ多くの課題はありますが、ひとつひとつ町民の皆様と「直接対話」を重ねながら「全員参加型町政」を構築し、課題を解決してまいります。

さて、昨年を振り返ってみますと四月に発生し甚大な被害となりました熊本地震を始め、岩手・北海道を直撃した台風十号など、日本

各地で災害が発生した年となりました。幸い東栄町では災害もなく安堵しているところでもあります。町としましては、災害ボランティアとして職員二名を熊本に派遣しました。この経験を生かして、体験報告会を行い、併せて防災講演会も開催することとなっております。我々の町でも、いつ発生するかわからない災害に備えることが重要です。町民の皆様にも是非ご参加いただきたいと思います。

十一月には、各地域において「町長と語る会」を開催し、「新たなまちづくりとマニフエスト」と題してお話をさせていただきました。後半には「東栄の将来を語ろう」と、参加者の皆様との意見交換を行い、このまちの将来はどうかあるべきかなどを共に考えることができました。

本年も一人ひとりの声に真摯に向き合いながら、困った人に手を差し伸べられる行政でなければならぬと強く思っています。町民の皆様と「信頼」で結ばれ、町民が主人公となる、「住んでみたい、住み続けたい、住んでよかった」そして、将来につながる活力あるまちづくりに、行政の責任者としてまいります。

本年の重点プロジェクトとしましては、次のことに取り組みます。地域包括ケアシステムを構築し、病院整備を進めます。また、郡医療連携により、引き続き郡内医療体制の確保を図ります。子育て支援として、保育環境の充実を図り、延長保育などサービスの充実、保育料の無料化も検討します。また、町民との協働により町を元気にする団体として東栄町観光まちづくり協会を設立し、まちづくりの視点で、地域が主役の新しい観光を発信します。三遠南信自動車道東栄ICの開通を見据え「道の駅」の整備に取り組みます。定住促進事業については、空き家バンクをさらに充実するとともに、賃貸後譲渡型住宅等の整備を促進します。地域支援職員の制度を確立し、集落カルテによる集落支援を充実します。東栄町出身者等による「ふるさと応援隊制度」を創設します。

そして、本町がしっかりと歩み続けるためには、行財政改革を一層推進し、将来にわたる持続可能な行財政基盤の強化が必要です。特に公共施設の再配置等は、断固とした決意と信念を持って、やらなければなりません。自らが先頭に立ち、職員一丸となって全力で取り組んでまいりますので、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が町民の皆様にとって素晴らしい一年になりますよう、心よりお祈り申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。